

演習問題 1.3 次の集合で部分空間になるものはどれか考えよ。

$$(1) W_1 = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 - x_2 + x_3 = 0 \right\}$$

$$(2) W_2 = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 - x_2 + x_3 = 1 \right\}$$

$$(3) W_3 = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 + x_2 = 0, x_2 - 3x_3 = 0 \right\}$$

$$(4) W_4 = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 + x_2 = 0 \right\}$$

$$(5) W_5 = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 + x_2 = x_3 x_1 \right\}$$

$$(6) W_6 = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 x_2 = x_2 x_3 \right\}$$

$$(7) W_7 = \mathbf{R}^3$$

$$(8) W_8 = \{\mathbf{0}\}$$

部分空間になるためには3つの条件を満たしている事を調べればよい。逆に言うと3つの条件のうち1つでも満たさないものがあれば、部分空間ではない。条件の1番目はすべて満たしている事は容易にチェックできる(であろう)。最初に部分空間になるかならないかあたりをつけて、なると思われる場合は2つの条件を例等に従って示せばよい。証明の途中でうまく行かないようであれば、あたりのつけ方が間違っていて成り立たない方なのかもしれないので方針変更を考える(事になるかもしれない)。例えば(1)を考える。 W_1 は部分空間になりそうに思われる(原点を通る平面を表しているような感じがする)ので証明を試みる。 W_1 の任意のベクトル

$$\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}, \mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix} \text{をとってくる。このとき } x_1 - x_2 + x_3 = 0, y_1 - y_2 + y_3 = 0 \text{ が成立}$$

している。この和がまた W_1 のベクトルである事を示せばよい。 $\mathbf{x} + \mathbf{y} = \begin{pmatrix} x_1 + y_1 \\ x_2 + y_2 \\ x_3 + y_3 \end{pmatrix}$ なので、

$(x_1 + y_1) - (x_2 + y_2) + (x_3 + y_3) = (x_1 - x_2 + x_3) + (y_1 - y_2 + y_3) = 0 + 0 = 0$ となり、 $\mathbf{x} + \mathbf{y} \in W_1$ が分かる。3 番目の条件に関しても同様にやればよい。

ならないと思われるものには、条件を満たさないベクトルを探して持ってくればよい⁽¹⁾。例えば

(2) の場合、 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ は $\mathbf{x} \in W_2$ であるが、 $\mathbf{x} + \mathbf{x} = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ は W_2 には属さない(何故か?)。

2 番目の条件満たさないので部分空間ではない。

演習問題 1.4 次の部分空間で等しいものはどれか? ただし $\mathbf{x}_0 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$,

$\mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x}_4 = \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x}_5 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x}_6 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ とする。

- | | | |
|---|--|--|
| (1) $\{\mathbf{0}\}$ | (2) $\langle \mathbf{x}_0 \rangle$ | (3) $\langle \mathbf{x}_1 \rangle$ |
| (4) $\langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \rangle$ | (5) $\langle \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3 \rangle$ | (6) $\langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_4 \rangle$ |
| (7) $\langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3 \rangle$ | (8) $\langle \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3, \mathbf{x}_5 \rangle$ | (9) $\langle \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3, \mathbf{x}_6 \rangle$ |
| (10) $\langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3, \mathbf{x}_4 \rangle$ | (11) \mathbf{R}^3 | |

最初に表示に無駄がないかどうか調べる。即ち例えば $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle$ と書かれているが、実際には $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle = \langle \mathbf{v}_1 \rangle$ となる場合もあるからである。

$\langle \mathbf{v} \rangle$ の様に 1 個のベクトルから生成される場合、 \mathbf{v} がゼロベクトルかどうかで様子が変わる。 $\mathbf{v} = \mathbf{0}$ の場合は任意の実数 a に対して $a\mathbf{v} = a\mathbf{0} = \mathbf{0}$ なので、 $\langle \mathbf{v} \rangle = \{\mathbf{0}\}$ となる。それ以外のとき $\langle \mathbf{v} \rangle$ は \mathbf{v} 方向の直線に対応する(位置ベクトルと考えて)。

次に $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle$ を考える。 $\mathbf{v}_1 = \mathbf{0}$ のときは $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle = \langle \mathbf{v}_2 \rangle$ なので、1 個の場合になる。よって $\mathbf{v}_1 \neq \mathbf{0}, \mathbf{v}_2 \neq \mathbf{0}$ とする。ある実数 a を用いて $\mathbf{v}_2 = a\mathbf{v}_1$ と書けるときは $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle = \langle \mathbf{v}_1 \rangle$ となる(何故か?)⁽²⁾。それ以外のとき $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle$ はベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ が張る平面に対応する(位置ベクトルと考えて)。

$\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3 \rangle$ を考える。 \mathbf{v}_i のなかにゼロベクトルがあれば 2 個の場合に帰着されるのでゼロベクトルはないとする。またある実数 a を用いて $\mathbf{v}_i = a\mathbf{v}_j$ と書けていると、前の議論と同様にすると 2 個の場合に帰着される。よって $\mathbf{v}_i = a\mathbf{v}_j$ と表されることはないとする。 \mathbf{v}_3 が $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ の線型結合で書けるかどうかを調べる。 $\mathbf{v}_3 = a\mathbf{v}_1 + b\mathbf{v}_2$ と線型結合で書けるとき $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3 \rangle = \langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle$ となる(何故か?)。線型結合で書けないときは $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3 \rangle = \mathbf{R}^3$ となっている(何故か?)。

4 個以上の場合は前の 3 個について前の議論を行う。3 個で無駄がなければ、 $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3 \rangle = \mathbf{R}^3$ なので、もう 1 個加えても $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4 \rangle = \mathbf{R}^3$ である。3 個で無駄が出た場合、例えば $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3 \rangle = \langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle$ となったときは、 $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4 \rangle = \langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_4 \rangle$ なので、この 3 個の場合を調べればよい。

⁽¹⁾条件成立は任意のベクトルについて「何とか」という形で述べられているので、その否定はあるベクトルに対して「何とかでない」という形になる。

⁽²⁾以下「何故か?」という質問が何度か出て来るが、これを一般的に示す事をここで要求はしない。ただし、具体的な \mathbf{x}_i 等については議論する必要がある。

次に例えば $\langle v_1, v_2 \rangle$ と $\langle u_1, u_2 \rangle$ が等しいかどうか調べる。このためには (1) $\langle v_1, v_2 \rangle \subseteq \langle u_1, u_2 \rangle$ (2) $\langle v_1, v_2 \rangle \supseteq \langle u_1, u_2 \rangle$ の 2 つを調べればよい。そのためには (1') $v_1 \in \langle u_1, u_2 \rangle$ かつ $v_2 \in \langle u_1, u_2 \rangle$ (2') $u_1 \in \langle v_1, v_2 \rangle$ かつ $u_2 \in \langle v_1, v_2 \rangle$ を調べればよい。この条件が 1 つでも成立しなければ $\langle v_1, v_2 \rangle \neq \langle u_1, u_2 \rangle$ である。ここで 1 つ注意 : v_1, v_2 と u_1, u_2 が異なっている

も $\langle v_1, v_2 \rangle = \langle u_1, u_2 \rangle$ となる事はある。例えば $v_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $v_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $u_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $u_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$ とすると, $\langle v_1, v_2 \rangle = \langle u_1, u_2 \rangle$ となっている (各自確かめよ)。

例えば $\langle x_1, x_2 \rangle$ と $\langle x_2, x_3 \rangle$ について等しいかどうか調べる。

$x_2 \in \langle x_2, x_3 \rangle$ は明らか (何故か?)。 $x_1 \in \langle x_2, x_3 \rangle$ かどうか調べる。今 $x_1 \in \langle x_2, x_3 \rangle$ を仮定すると (背理法), 実数 a, b を用いて $x_1 = ax_2 + bx_3$ と書ける。即ち

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} = a \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + b \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

となる。よって $b = 1, a = 2, b = 3$ となり, $1 = b = 3$ で矛盾, 故に $x_1 \notin \langle x_2, x_3 \rangle$ なので $\langle x_1, x_2 \rangle \neq \langle x_2, x_3 \rangle$ である。

以下他のものについても同様に試みよ。

別解: 前のやり方において無駄のない表示を求めずに直接 $\langle v_1, v_2 \rangle = \langle u_1, u_2 \rangle$ 等を示してもよい。ただしその場合, 個数が異なるものが一致する場合もあるので, すべての場合をチェックする必要がある。 $\langle v_1, v_2, v_3 \rangle = \langle u_1, u_2 \rangle$ を示すには, (1) $v_1, v_2, v_3 \in \langle u_1, u_2 \rangle$ (2) $u_1, u_2 \in \langle v_1, v_2, v_3 \rangle$ の 2 つを示せばよい。